

y
u

s
u
i
t
o

湧水と都

しまばらの
まち ひと
しごと

有明海にひらく
湧水あふれる
火山と歴史の田園都市



2018

長崎県島原市市勢要覧

Shimabara City
Profile Book



島原守護神
「しまばらん」

幼年消防クラブ
(消防出初式)

しまばらの
まち
ひと
しごと

湧水と 都と



鼻だご

眉山治山祈念公苑



有明の森フラワー公園

雲仙山麓を望む



湧水と 島原に暮らす 島原を生きる



次世代につなげる 7つの施策

有明海にひらく 湧水あふれる 火山と歴史の
田園都市 島原。この豊かな郷土が、市民の生き生き
とした笑顔であふれるまちであり続けるよう、本市
は「島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲
げ、次の7つの施策を重点分野として様々な事業に
取り組んでいます。

- 1 人口減少問題に立ち向かう
- 2 市民目線に立った行財政改革の推進
- 3 産業の振興
- 4 観光の振興
- 5 高齢者や障がい者などを思いやる
福祉の充実
- 6 教育・歴史・文化の振興
- 7 安全・安心なまちづくり

市内の至るところから、こんこんと湧き出る湧水
と、山海の恵みを生かし、自然と共生しながら
発展してきた島原市。先人たちが残してくれた
歴史や文化、人の温かさを後世へと繋げていく
ため、今の時代を生きる私たちができる施策を、
市民の知恵を結集しながら進めていきます。

「ARive(アライブ)」操作手順

この本にスマートフォン・タブレットをかざすと、ARコンテンツ(動画再生)をお楽しみいただけます。
無料ARアプリ「ARive」をダウンロードしてお楽しみください。



無料ARアプリ「ARive」
をダウンロードしてください。
※App Store や Google play で
検索してインストールしてください。



【動作環境について】
©iOS8.0以上、Android 4.0以上を対象と
しています。◎アプリのダウンロード・ご利用
は無料ですが、通信料はお客様の負担と
なります。◎通信状況によって、コンテンツ
の表示に時間がかかる場合があります。
◎Androidのバージョン・機種によって対応
できないものもあります。ご了承ください。

2 「ARive」を起動させ、下のQRコード
(島原市AR)をス
キャンして読み込
んでください。

【島原市AR】



アプリ起動後
QRコードを
スキャン!

3 「ARマーク」付近にスマートフォンを
かざすと、ARコンテンツをお楽しみい
たいただけます。

このマークが
目印です!





島原半島ユネスコ世界ジオパーク
Unzen Volcanic Area Global Geopark



戸田名千人浮立



銀水

ひょうたん池公園



千本木湧水



島原鉄道



島原城七万石武将隊

鯉の泳ぐまち



朝日に染まる有明海



長崎県島原市市勢要覧

Contents

目次

- 3 湧水とまち ~悠・水都~
- 7 湧水とひと ~優・水都~
- 11 湧水としごと ~結・水都~
- 15 しまばら湧水歳時記
- 17 市民が主役のしまばら
- 19 数字で見る島原市
- 20 市章／市の木・市の花
島原守護神「しまばらん」
- 21 市政・議会／兄弟・姉妹都市
- 22 島原市の沿革／市長メッセージ

スワイ



6月3日のりの日



風除祭



島原市民体育祭大運動会

この市勢要覧は **Catalog Pocket**
機能付き!! 多言語で読める! しゃべり出す!!

下のQRコードより無料アプリ「Catalog Pocket」を
をインストールし、「島原市」で検索!!



Apple



Android

鯉の泳ぐまち

恵里神社

宇土水源

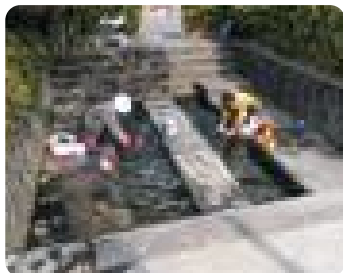
湧水あふれる
澄んだまち並み!湧水と
まち— 悠・水都 —
ゆうすいと

「水の都」の古き良き城下町

島原市は、古くから「水の都」と呼ばれ、まちのいたるところから水が湧き出しています。国土庁から、昭和56年(1981)「水緑都市モデル地区」に、平成7年(1995)「水の郷」に指定されています。昭和60年(1985)に、環境庁から「日本名水百選」に選定されたときの選定理由は、「市内各所に、湧水がみられ、それは、生活用水に利用され、また、古くからの水路等が残されて、水辺環境の整備が行われている」と述べられています。

元和2年(1616)、大和五条奈良県五條市)から島原藩主として入封した松倉重政が築いた島原城とその城下町。武家屋敷の水路をはじめ、まちのいたるところにある洗い場や水汲み場など、先人たちは、水を上手に取り入れたまち並みをつくり、清潔保持に努め、水を大切に守ってきました。その営みは、今も大切に受け継がれ、生活に欠かせないものであると同時に、私たちの目を楽しませ、癒してくれるものとなっています。

悠久の時を経て大切に守られてきたこの「湧水」を、島原市はシンボルとして、その魅力を市内外に発信します。



白土湖桶川洗い場



白土湖



九十九島と眉山



平成新山



浜の川湧水の洗い場



水頭の井戸



観光交流センター「清流亭」



しまばら湧水館



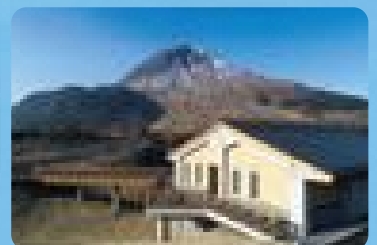
「泉源公園」足湯



島原温泉



雲仙岳災害記念館「がまだすドーム」



平成新山ネイチャーセンター



市民には当たり前の 「湧水」が観光のシンボル

湧水を
感じて学んで
遊ぼう!!



100%天然地下水の上下水道。まちのいたる所にある水汲み場など、市民にとっては、生活の一部であり、当たり前の「湧水」ですが、それは、島原の大切なシンボルです。ユネスコ世界ジオパーク日本認定第1号である島原半島ジオパークのジオサイトでもあります。ジオパークが織りなす風光明媚な大自然とキラキラと輝く湧水や、島原城を中心とした歴史、文化、普賢岳のふもとの肥沃な大地と清らかな水で育った農畜水産物などの特産品。これらの島原特有の観光逸材を生かしつつ、進みゆく時代に合わせた新しい仕組みを取り入れながら、島原市は更なる観光の振興を図ります。

観光の振興



湧水城下町おもてなし事業



銀水・浜の川湧水賑わい創出事業

水の美しさ、
山からの恵み、
自然と共存する
まちの人たちの
包容力の深さ！



四明荘にて



(株)島原観光ビューロー設立



子ども狂言



先踊り



精霊流し



島原木綿



和ろうそく



和ろうそく絵付け体験



本光寺山門



松平文庫の古典籍



伝統的なものが多い島原。
和ろうそくも人気が
高まっています！



古き良き日本文化を 伝え受け継ぐ城下町

歴史・文化の振興

「築城の名人」として名高い松倉重政が築いた島原城の城郭とまち並みは、島原のまちの礎となり、今日に至っています。

島原の乱後、江戸時代の大半の期間を治めたのは、三河国深溝（愛知県幸田町）を出自とする譜代の松平氏で、島原藩の発展に尽力しました。

特に寛文9年（1669）丹波福知山（京都府福知山市）から移封された松平忠房は、今日の島原半島の産業や文化の基礎を築きました。好学だった忠房が蒐集した蔵書「松平文庫」をはじめ、先人たちが築いた産業や文化は大切に継承され、島原では、今もその歴史や功績に触れることができます。

寛政4年（1792）に起きた「島原大変肥後迷惑」と呼ばれる火山災害で窮乏した藩政を救った産業、「櫓の実による『蠟燭作り』」もその一つです。

なお、大分県豊後高田市や、京都府福知山市、愛知県幸田町とは、松平氏を介した縁が息づいています。

武家屋敷



三十番神像（護国寺）

旧島原藩薬園跡



島原城薪能



藩主松平家墓所（本光寺）





島原道路

地域高規格道路「島原道路」は、島原半島と九州横断自動車道を結ぶ延長約50kmの自動車専用道路で、「県内2時間交通圏の実現」「国道251号の渋滞緩和」「災害時の避難道路」として計画されたものです。道路の完成により高速ICまでの所要時間短縮や農業の活性化、交流人口の拡大、救急医療体制の強化、渋滞の緩和が期待されます。

また、町内会や自治会を単位とする自主防災組織は、平成3年に起きた雲仙普賢岳噴火災害を機に、100%の組織率をもつて結成され、避難訓練や消火訓練が市内各地域で行われるなど、いつ起こるかわからない自然災害に備え、地域の繋がりを基盤とした防災に取り組んでいます。加えて、FM放送を利用した防災ラジオの全戸配付や、国や県、警察、消防などと合同で行う「防災対策現地視察」など、島原市では、市民と市、県、国まで一丸となって防災に取り組むことで、今なお高い防災レベルを維持しています。

近年、日本各地で多発する集中豪雨や地震、火山活動などの自然災害。平成28年、対岸で発生した熊本地震においても、多くの自治体で防災拠点となるべき庁舎が損壊するという事態が発生し、本市庁舎でも被害が発生しました。現在、庁舎の建替(平成31年度完成予定)を進めています。が、災害に強い防災拠点としても早期の完成が望まれています。

安全・安心なまちづくり

未曾有の自然災害を乗り越えてきた
まちだからこそ発信できる
安心して暮らせるまちづくり



市役所新庁舎完成予想図



島原道路
建設促進大会



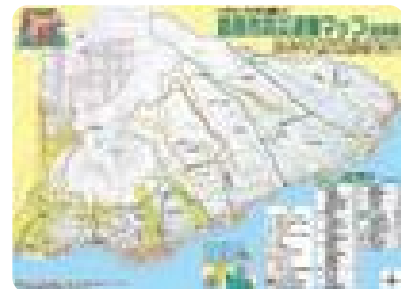
防災対策現地視察



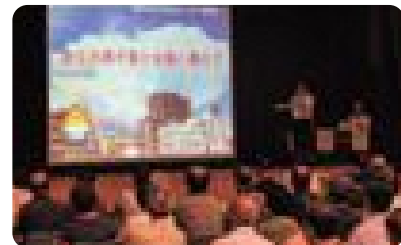
無人化施工技術実験



眉山の治山対策



島原市防災避難マップ



島原市自主防災会リーダー研修会



旧庁舎



乳幼児健康診査



湧水と
都ひと



— 優・水都 —
ゆうすいと

子どもを真ん中に！

まちぐるみで

「子育て」応援

子育てにやさしい島原

島原市の子育ては、家庭や地域、行政、各団体がスクラムを組み、とことん子育てにやさしいまちづくりを目指しています。

いつの時代も子どもたちはまちの宝。未来を担う子どもたちを常に真ん中において、子どもたちの笑顔があふれ、豊かな心を育む環境を、地域力を結集し取り組みます。



interview

パパ・ママになるなら

島原市

島原市在住の子育てママ

初産の不安が 逆に楽しさのきっかけに

0歳から5歳頃までの幼児世代の子育てママが集う島原市主催の子育てサークルに参加している親子に島原市の子育て支援についてお聞きしました。

初産ということもあり妊娠がわかった頃から出産や子育てへの不安が日に日に大きくなりました。無我夢中で主人と一緒に初めての出産を乗り越え、乳幼児健診で耳にしたのが、島原市のいろんな子育てサークルのことでした。特に出産したばかりの親子が集うサークル「IPPO(いっぽ)」には助けられました。



初めての子育てで右も左も分からなかった時期に支援員さんたちからのサポートやアドバイスがあって…。一番嬉しかった

のは同じ月齢の子を育てている同じ状況のママたちとの出会いでした。それまでの子育ての悩みが「私だけじゃなかったんだ」と思えて、本当に気持ちが楽になりました。

病気になった時の病院の話、離乳食の話、ウンチの話、授乳の話など、たわいもない話なんですけど、24時間ずっと子どもと向かい合っていた私にとっては、とても貴重な時間になりました。



島原市は子どもの年齢に合わせて、いろんな子育てサークルや支援があるし、母親のように相談できる支援員さんたちの存在にも助かっています(笑)。「子育ては完璧じゃなくてよかとよ」と言われた時は本当に涙するほど嬉しかったです!



島原市は
子ども達の
応援団!!



子どもたちは島原の“宝” 地域や行政、幼保小中機関が連携し、 子どもたちの笑顔があふれるまちに!

島原市は、安心して子どもを産み、育てることができる社会環境をつくるため、育児用品代の助成や、島原市独自の2人目以降の保育料軽減制度、中学生までの医療費の助成など、経済的負担を軽減する施策に加え、出産前後の育児・家事の支援、産後ケアや親同士の仲間づくりの支援、ひとり親等への支援や小児診療体制の整備など、子育て世代への支援の充実を図っています。

子どもは島原の「未来」です。

保護者、市、学校、保育園、地域がそれぞれの立場から子育てをサポートできる、子育て世代が暮らしやすいまちづくりを進め、人口減少問題に立ち向かいます。



子育て支援室 (地域子育て支援センター)

子育て中のお父さん、お母さんが親子でホッとできるふれあいの場として、島原市保健センター内に開設しています。





放課後子ども学習教室



中学生海外訪問交流事業

未来を担う若者支援と 移住促進で定住人口の増加へ

人口減少問題に立ち向かう

温暖で海も山も近く、水がきれい、食べ物も美味しく温泉もあるなど、島原市はとても暮らしやすいまちです。そんな「住みよいまち島原」の人口を増やすため、「島原暮らしの魅力」を県内外に積極的に発信し、移住・定住の促進を図ります。

また、婚活支援や雇用の創出、若者の挑戦を応援する環境づくりや

高校生のアイデアを生かす取組、子育て支援の充実、積極果敢に人口減少問題に立ち向かいます。

自然が豊かで
人が優しい！
移住者が暮らし
やすいまちです！



地域おこし協力隊



空き店舗活用販売実習「島商アップ」

心豊かでたくましい子どもを 育てるために

教育の振興

島原市の子どもたちには、郷土を愛し、国内や国際社会で活躍できる社会性豊かな人に育ってほしいと考えます。そのために、確かな学力を身に付けることを第一に、豊かな心づくり、健やかな体づくり、グローバル化・情報社会にも柔軟に対応できる、たくましく生き抜く力を持った人づくりを行っています。

また、放課後や夏休み期間中における子どもの居場所確保や自主的な学習習慣を身に付けるための取組を学校、地域、家庭が一体となつて行うなど、「地域ぐるみの子育て」にも市内全域で取り組むとともに、償還免除型の奨学金「ふるさとにもどってこね奨学金」を創設し、島原市の未来に向けてがんばる学生を応援しています。



夏休みスクールキッズ事業





シェアリングエコノミー推進事業「島原コスプレの乱」

場所や人、モノなど遊休資産をシェア（共有）し課題を解決する行政のあり方として注目されているシェアリングエコノミーサービスに取り組みます。

持続可能な自治体のため効率良い市政運営を行うためにも共有できる観光施設や古民家など遊休施設を新たな形で活用していきます。

地方創生に向けて、これからも積極的に企業や市民と連携し、まちを活性化させるとともに、市民の声を市政に生かし、市民目線に立った行政改革を進めていきます。

シェアリングシティ宣言！ 遊休資産を活用し課題に取り組む 市民目線に立った行政改革



企業との女性活躍に関する包括協定



シェアリングシティ宣言



健康づくり推進員の地区活動
（唄って歌って健康づくり）



市長杯パタンク交流大会

島原市は、市民が健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。いくつになっても、体が不自由な状態においても、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を目指します。特に、通院や買い物、交流の場への移動手段の確保は福祉政策の大きな課題。これまでの実証運行を踏まえ、具体的な公共交通網の再編と利便性の向上を図ります。

中心市街地に交流の場の整備を進め、市民同士の交流の機会を増やし、島原らしく顔の見える関係を築き上げ、交流の活性化を、商店街の活性化にも繋げていきます。

また、元気で活発な高齢者には、その元気を各地域で発揮してもらい、次世代に繋がるまちづくりのアドバイザーとして活躍していただき、いくつになっても、役割と生きがいを持って、自分らしく暮らせるまちを目指します。

福祉施策の充実と 思いやりのあるまちづくりへ 高齢者や障がい者を思いやる福祉の充実



ノルディックウォーキング教室



“芝生で”いきいきワンデー

島原ブランド

島原の風土から育まれた山海の幸。雲仙岳の麓に広がる黒味を帯びた豊かな土を湧水が潤し、山から流れ出た栄養が有明海へと注がれ、宝の海となる。この好循環こそが「島原ブランド」を産む源です。

島原市の特産品



六兵衛

湧水と

都

じと

— 結・水都 —

ゆうすいと

美味しくて安全な島原の産品

販路拡大を目指して
世界と島原を「食」で結ぶ

島原の豊かな農畜水産物や加工品等の販路拡大を目指して、島原市では島原の食材を使ったシェフによるプロモーション事業や、百貨店での催事支援事業、海外販路開拓事業などの取組を行っています。多くの方々に、島原の産品を手にしていただけるよう、これからも、様々な事業を展開していきます。



島原産品プロモーション事業



特産品PR催事支援事業



アールスメロン

かんざらし



菌床しいたけ



ジオアワビ



生姜



ミニトマト



ジビエ料理



ほうれん草・みず菜・こまつ菜

島原市特産品認定制度

島原市では、市内の優れた特産品を認定し、全国に向けて情報発信、PR、販売支援等を行っています。



Shimabara
Special
Quality



島原スペシャルクオリティ 公式ウェブサイト
<http://www.shimabara-sq.com/>



豚肉



有明ガネ(ガザミ)



天然車エビ



クツゾコ(舌平目)



長崎和牛



わかめ

いぎりす



ガンバ(ふぐ)



貝雑煮



高校生新商品開発支援事業



海外販路開拓支援事業



産学金官連携プロジェクト事業



ビジネスマッチング商談会開催事業



ザボン漬



島原イチゴの雫



スープカレーそうめん



チェリー豆



普賢岳スパークリング



手打ち刃物



島原焼



和ろうそく

島原の産業

恵まれた気候と土壌条件を生かして農産、園芸、畜産のバランスのとれた農業が展開されている島原市。その基幹産業である農業を中心に、水産業や商工業がスクラムを組み、



ブランド化の推進や販路拡大に取り組んでいます。また、高校生と共同で新商品の開発を行い、更なる消費拡大を目指すとともに、企業誘致、創業支援、担い手の育成などにも積極的に取り組み、雇用の創出や移住・定住の促進を図っています。

豊かな農地が生み出す 島原産のブランド野菜

島原の農業

県内屈指の広大な農業地帯と、豊かな土壌で育つ作物は関西を中心に全国に出荷されており、安定供給できることは、最大の島原ブランドとして認知されています。特に、大根や人参、白菜などは「島原産」の代表作物として市場でも高い評価をいただいています。担い手育成にも力を入れ、農地の基盤整備を核として近代的な施設の整備や農業用機械等が導入されるなど、次世代に向けた農業の展開が進んでいます。

自然が豊かで
おいしい農産物が
たくさんあります。
農業が元気なまちです！



認定農業者フェア



洋蘭の栽培



ノリ養殖



県外から移住されたご夫婦



島原市

ふるさと納税



島原市ふるさと納税特設サイト

<http://www.furusatonouzei-shimabara.jp/>



ふるさとしまばら寄附金

市外からの熱い応援団
ふるさと納税返礼品も高評価！

インターネット上のポータルサイトなどを通じて、全国から多くの皆様に応援していただいています。

野菜・お肉・魚介類・麺類など、地元の特産品を返礼品としてお送りし、寄附者の皆様にも喜んでいただいています。

皆様からいただいた寄附金は、市内の地域活性化をはじめ、歴史遺産の保全、福祉、教育、スポーツ、観光など、様々な分野で活用させていただきます。

有明海の天然モノと 技術を結集した養殖業

島原の水産業

島原市では、島原半島に面した

有明海からの海の恵みをはじめ、ワカメやノリなどの海藻類の養殖に加え、陸上においても、フグなどの養殖が行われており、特に近年は、アワビ養殖の取組も行われています。

また、担い手の育成や働く環境の整備にも力を入れ、後継者育成支援や新規就業者支援など、働く環境へのサポートを行うとともに、沿岸環境保全への取組も行っています。



質の高い選ばれる

肉を目指し、

効率化と機械化で

魅力ある畜産に！

島原の畜産業

代々受け継がれている

畜産家が多く、黒毛和牛やブランド豚など質の高い肉を生産しています。湧水を与え育つ畜産は、肉質の評価が高く、一般消費者や料理人からも高い評価をいただいています。

また、後継者や新規就農者が育つ環境づくりとして、牛舎や豚舎の管理の機械化やデータベース化を図り、産業としての魅力ある畜産業を目指しています。



黒毛和牛は
もちろん、島原は自慢
できるうまい
もんが多い！



有明海で
水揚げされた魚



土曜夜市



鍛冶工場



アワビ陸上養殖施設



昆布漁



島原野菜は
「おいしい！」と
全国の人から
高い評価。
島原半島は
農産物の宝庫！



チャレンジする島原市 今までにないアイデアを形に！

島原の商工業

農林水産業が際立つ島原市の産業の中で、次世代に活かせる新規事業に取り組み企業の誘致を積極的に行っています。企業の新たな設備投資や新規雇用支援を行い、若年層の地元雇用につなげています。

また、創業を志す人たちのワンストップ相談窓口として「しまばら創業サポートセンター」を設置し、創業

や中小企業の事業継承を支援しています。

その他にも、中心市街地商店街の活性化に向けて、商店街活性化推進事業を実施し、まちの元気とにぎわいの創出に取り組んでいます。

しまばら創業サポートセンター事業



しまばら湧水歳時記

2月

島原城下ひなめぐり

城下町島原に春の訪れを告げる行事。

3月

島原初市

江戸時代初期の元和4年(1618)から続く歴史ある行事。

3月下旬～5月初旬頃

春の花まつり

「しまばら火張山花公園(旧しまばら芝桜公園)」で開催される行事。

5月

鯉の放流

鯉の泳ぐまちで、鯉の供養と鯉の放流を行います。

5月上旬

島原半島ジオ・マルシェ

島原半島ユネスコ世界ジオパークの肥沃な大地(ジオ)の恵みを感じられる食のイベント。

8月

島原水まつり

島原の湧水の恵みに感謝する行事。

8月15日

精霊流し

3000年の伝統を誇る島原の精霊流し。

8月下旬

島原温泉ガマダス花火大会

平成5年より雲仙普賢岳噴火災害からの復興と観光活性化を祈願し、開催している花火大会。

春
Spring

桃カステラ

押し絵雛

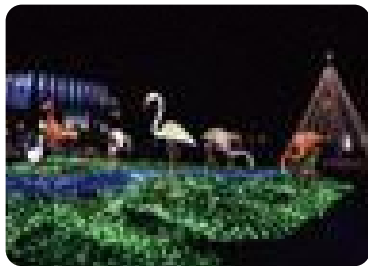
夏
Summer

島原温泉ガマダス花火大会

島原城下ひなめぐり

春の花まつり 島原初市

精霊流し



島原ウインターナイト・ファンタジア



アリアケフェスタ



島原半島ジオ・マルシェ



しまばら温泉不知火まつり

12月

11月

10月

12月下旬

島原ウインターナイト・ファンタジア

雲仙普賢岳噴火災害からの復興を願って始められた島原の冬の風物詩。18万個もの電球による光の饗宴が、幻想的な世界を演出します。

島原の地を力走します。



12月上旬

平成新山島原学生駅伝

九州の大学No.1を目指して、学生たちが

11月下旬

島原ふるさと産業まつり

多彩な島原の特産品が勢ぞろい。食べて、買って、遊んで、家族で楽しめる行事です。

秋桜まつり

雲仙岳の最高峰、平成新山を一望できる「しまばら火張山花公園」に、満開のコスモス。

11月上旬

有明の森フラワー公園で開催。特産品市や恒例イベントでにぎわいます。

アリアケフェスタ

10月下旬

がまだずドームに島原半島の美味しい、楽しいが大集合。

島原半島ジオ・マルシェ

10月中旬

しまばら温泉不知火まつり

島原の歴史と文化、大地の恵み、温泉の恵みに感謝する行事。

10月中旬

天守閣前に特設された能舞台で、松明に照らされ

厳かに舞われる能に魅了されます。

島原城新能

10月上旬

島原城秋祭り

月を愛で、秋の風を感じながら、島原城で夜まで秋を満喫する行事。



島原ふるさと産業まつり



平成新山島原学生駅伝



島原半島ジオ・マルシェ

秋桜まつり



島原城秋祭り



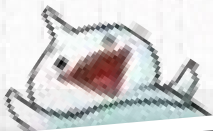
島原城新能

秋

Autumn

冬

Winter



湧水は島原人の自慢で誇り。
どこかホッとするまちですよ!



湧水を鯉が泳ぐ風景は自慢。
島原城はまちのシンボル!!



城下町にして水の都! 歴史と湧水の
島原に、ぜひお越しください!



元気な子どもたちがいっぱい!!



ジャガイモにさつまいもなど
農産物がおいしい!

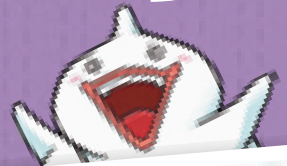


山の物、海の物が美味しい!!
城下町の雰囲気最高!

「市民が主役」のしまばら

市民の皆さんに
聞きました!

ずっと大切にしたいしまばらの魅力、
もっと広げていきたい島原のいいところって、何ですか?



水のキレイさは日本一!!



何と言っても食べ物がウマイ!
まちにあふれる“気”がいいですね!



やっぱり湧水が一番の自慢! 歴史もあって
人情味も豊かです!!



人がよか、水がよか、食べもんがよか。
ボカシもよかよ!!



みんなの笑顔が最高!!
スマイルライフしまばら!





おいしい食材が本当に多い。郷土料理を若い人に伝えていきます！
湧水、人、自然が島原のいいところ。自慢のまちです。



海と山が近く、温泉もある。
暮らしやすいまちです！



まちの人たちの防災意識が高い。
若い人たちの地域貢献への意識が高い！



まちの人が優しく、元気な人が多い。
きっとまた来なくなるまちです!!



人情のまち。困っている人をほっとけない
人が多く、助け合い・支え合いのまちです！



湧水を中心に 人がにぎわい、
あふれ、支え合う、それぞれの物語。



会う人会うみんな優しい。
移住者を受け入れてくれるまちです!!



日本で最初のジオパーク認定エリア。
自然と共生するまちの人たちの心が深い！



まちの中心にお城があり、まち並みに
風情がある。そしてみんな優しい！



人情味あふれる人の良さが島原自慢！

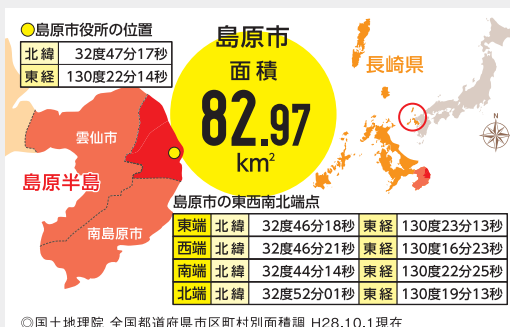


人があったかい。何でも親身になって
話を聞いてくれる人ばかり！

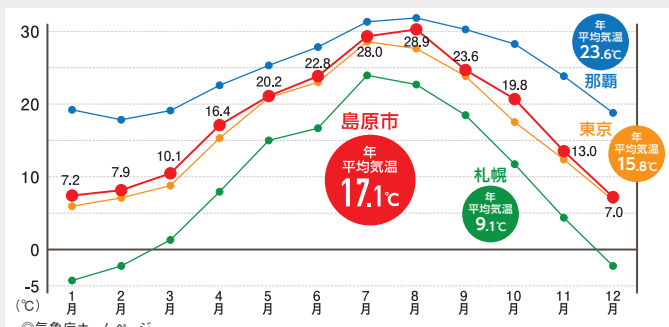


数字で見る島原市

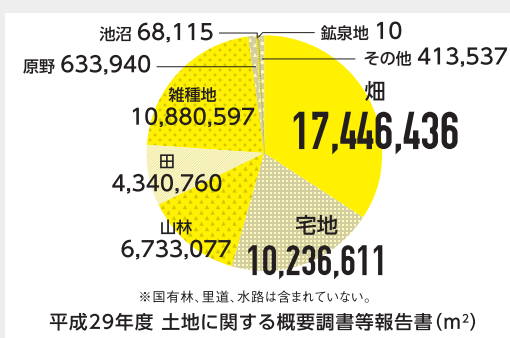
◎面積と位置



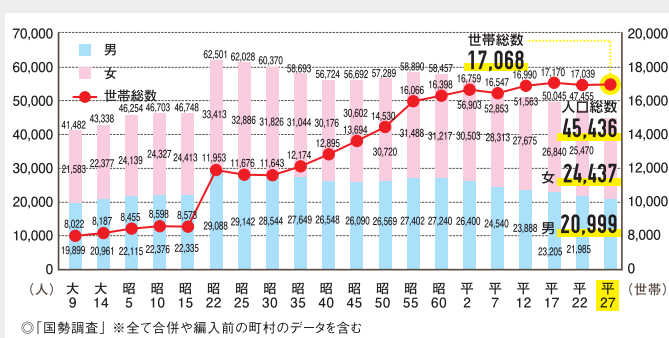
◎平均気温(平成29年)月ごと



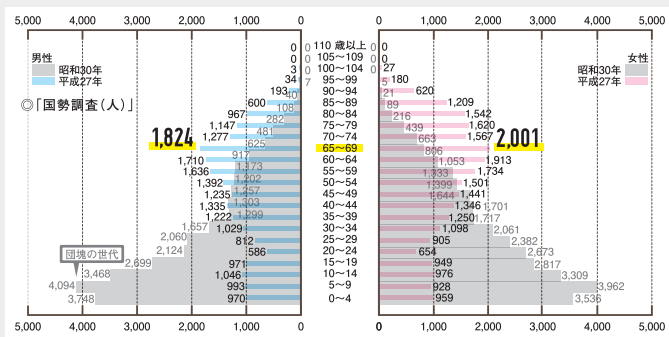
◎地目別土地面積



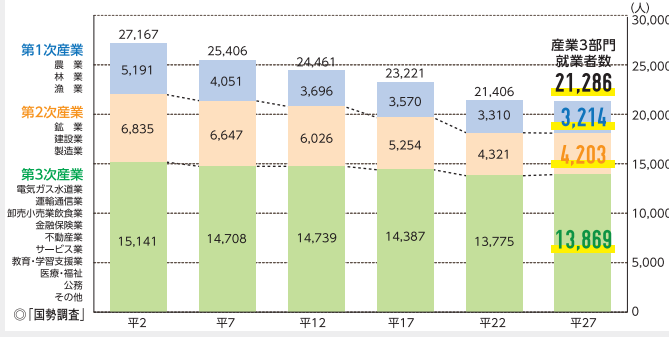
◎人口と世帯数の推移



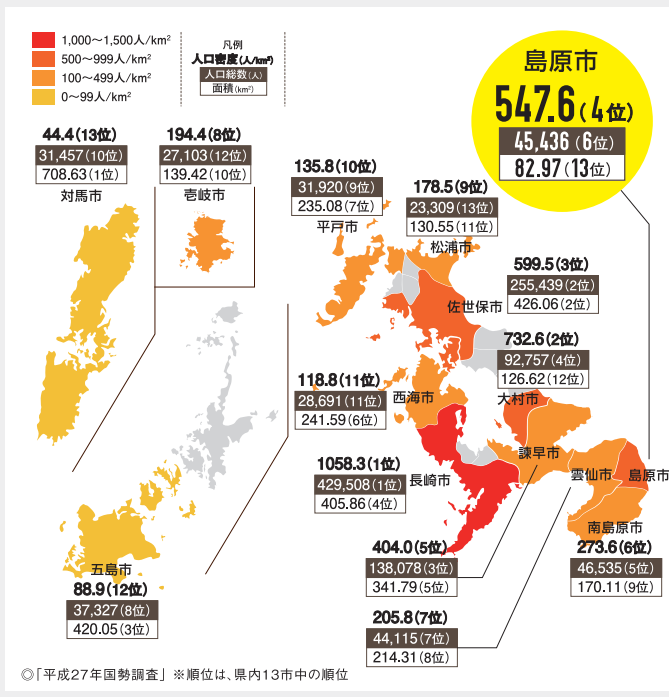
◎年齢区分ごと男女別人口



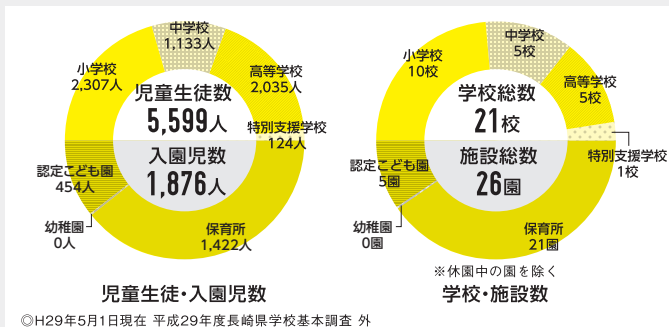
◎産業別就業人口の推移



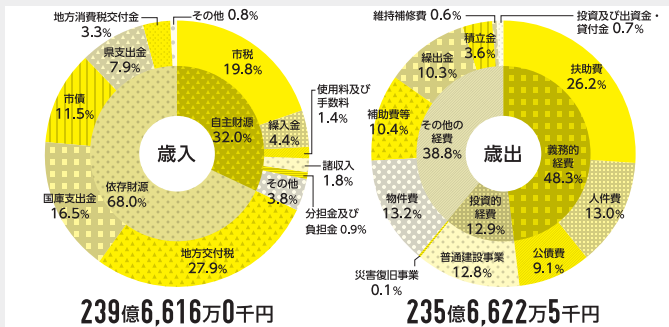
◎長崎県内各市・人口・面積・人口密度



◎学校・施設数／児童生徒・入園児数



◎平成28年度普通会計決算概要

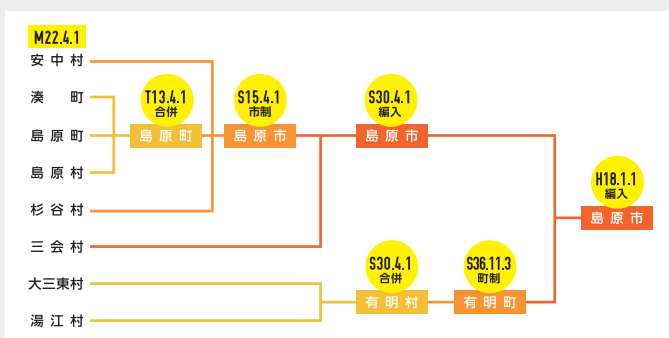


◎医療の状況

	長崎県	島原市
病院数	1,540	49
病院病床数(床)	30,413	1,329
人口対千人病床数(床)	22.3	29.6
医師数(人)	4,218	118
人口対千人医師数(人)	3.1	2.6
歯科医師数(人)	739	26
人口対千人歯科医師数(人)	0.9	0.9
薬剤師数(人)	2,901	104
人口対千人薬剤師数(人)	2.1	2.3

◎H28.10.1現在「医療施設調査」※精神科病院及び一般診療所を含む。
H28.12月末現在「医師、歯科医師、薬剤師調査」

◎行政区画の変遷





市の花／梅



市の木／くすの木

市制施行を記念して、懸賞募集により昭和15年4月1日に制定しました。「島原市は山を負い、海に臨む風光明媚の地にして、4個のマを配して「シマ」を現し、円満な市政と市民協和を象徴す」と表現しています。

市章



プロフィール

誕生日◎ 4月6日(城の日)

出身地◎ 島原(現在の島原市)

性別◎ 男 年齢◎ 不詳

性格◎ 郷土愛に満ち、何事も真っ直ぐで一生懸命。しかし、おっちょこちょいで、疲れやすく体力には自信がない。

趣味◎ 毎日、朝五時に起き、まちを散策しながらマイボトル(特製のひょうたん)を使って「湧水」を飲むことが日課。

特技◎ もめ事をうまく、解決する力がある。(かんざらしの白玉を丸めるように)

弱点◎ 暑さに弱く、すぐ喉がかわく。しかし! 島原の湧水を飲むと元気になる。

好きな食べ物◎ かんざらし



生の救世主として、島原を「元氣」にしてくれます。

島原守護神「しまばらん」降臨

島原守護神「しまばらん」が島原市に降臨しました。

これは、「島原ふるさと創生小西紀行プロジェクト」の一環として漫画「妖怪ウォッチ」の作者で島原市出身の小西紀行さんの

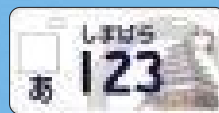
プロデュースにより誕生したものです。「しまばらん」は、島原の

守護神であり、島原ふるさと創

デザインナンバー交付事業

原動機付自転車のナンバープレートに「島原城」と「島原守護神

しまばらん」をモチーフとしたデザインナンバーを作製・交付しました。「走る広告塔」として、「島原市」及び「しまばらん」のPRに繋がります。



50cc以下(イメージ)



50cc超90cc以下(イメージ)



90cc超125cc以下(イメージ)

一緒に島原市を盛り上げよう!!





副議長
馬渡 光春



議長
本多 秀樹



教育長
森本 和孝



副市長
柴崎 博文



市長
古川 隆三郎

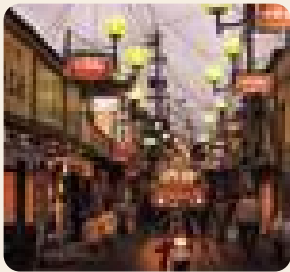


島原市議会は、市民の代表として選ばれた19名の議員で構成されており、市民の要望や意見を市政に反映させる意思決定機関としての役割と行政を監視するチェック機能の役割があります。

また、「しまばら市議会だより」の各世帯配付をはじめ、ケーブルテレビ、FMラジオ、インターネットによる本会議の配信や議会ホームページなどを活用して、議会の情報を発信し、市民により身近な開かれた議会を目指してまいります。

開かれた議会を目指して

市政・議会 市民の声を市政へ届ける



昭和の町

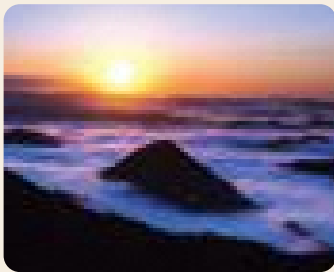


長崎鼻

大分県 豊後高田市

豊後高田市は、寛文9年（1669）から213年間、同じ島原藩の治めるところであったことから、その歴史的な縁にちなんで、昭和44年4月25日に兄弟都市の提携を行いました。

兄弟都市提携以降、両市民がお互いの市を相互に訪問し合い、小学生がそれぞれの市でホームステイを行うなど、友好交流が続いています。



大江山の雲海



福知山城

京都府 福知山市

江戸時代初期、寛文9年（1669）、福知山城主であった松平忠房が、肥前島原藩に国替えとなり、家臣とともに島原へ移り住んだという歴史的な縁がきっかけとなって交流が始まりました。

昭和58年3月1日に姉妹都市を提携し、その後も文化・スポーツや市民団体の訪問など、心通い合う交流が続いています。



こうた風揚げまつり



本光寺

愛知県 幸田町

幸田町は、島原藩主松平忠房の出身地であり、歴代松平家島原藩主の亡骸が、幸田町の瑞雲山本光寺に埋葬されているという歴史的な繋がりがあります。

平成26年10月11日の「歴史と文化の友好交流の推進に関する協定」締結を契機として友好交流が深まり、平成29年10月11日に姉妹都市の提携を行いました。

兄弟・姉妹都市 — 友好の絆をつなぐ —

島原市の沿革

城下町としての島原の歴史は、有馬氏の後に、島原藩主として入封した松倉氏が、拠点をも馬（南島原市）から島原に移し、元和4年（1618）から7年3箇月の歳月をかけて島原城を築城した時から始まり、以来、島原半島の政治、経済、教育文化の中枢的地位と役割を果たしてきました。その間、寛永14年（1637）には、「島原の乱」が起こり、寛政4年（1792）には、「島原大變肥後迷惑」といわれる大災害に見舞われました。

この2つの大きな動乱と地変を経て、明治4年（1871）廃藩置県により、島原藩は島原県となった後、同年11月に長崎県に統合され、明治11年（1878）、旧城下町は島原村、島原町、湊町となり、大正13年（1924）4月にその三町村が合併して島原町となりました。

昭和15年（1940）4月1日には、安中村、杉谷村と合併して、長崎県下で3番目、全国で15番目の市として市制を施行し、昭和30年（1955）4月、三会村と合併。その後、平成18年1月1日に有明町と合併し、現在に至っています。一方、旧有明町は、大野村、三之沢村、東空閑村、湯江村に分かれていましたが、明治22年4月、大野村、三之沢村、東空閑村が合併して大三東村となり、昭和30年4月1日、大三東村と湯江村が合併して有明村となり、昭和36年11月3日、有明町として町制を施行後、平成18年1月1日の合併により島原市となりました。

また、平成2年（1990）11月17日には、雲仙普賢岳が噴火し、平成3年6月3日に発生した噴火災害では、43名もの尊い人命が奪われるとともに、平成8年6月の終息宣言までの長きにわたり、多数の家屋や土地が被災するなど、苦難の時を歩みました。しかしながら、国県の支援や全国から寄せられたお見舞いや義援金、市民をはじめ多くの方々の努力により、復興を果たし、今日に至っています。

市長メッセージ／市勢要覧発行にあたって

島原市では、本市の将来像である「有明海にひらく湧水あふれる火山と歴史の田園都市島原」の実現に向け、「思い」を「かたち」にするべく、魅力あるまちづくりを進めてまいります。

このたび、市内外の多くの方々に島原市の魅力を発信し、「島原市をもっと知りたい」「訪れてみたい」「住んでみたい」という思いを馳せていただきたいと願い、「島原市市勢要覧」を作成いたしました。

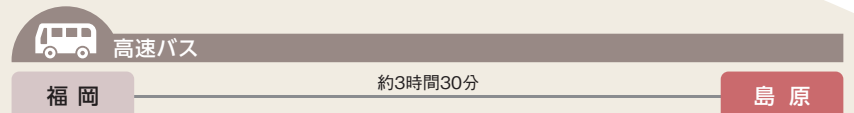
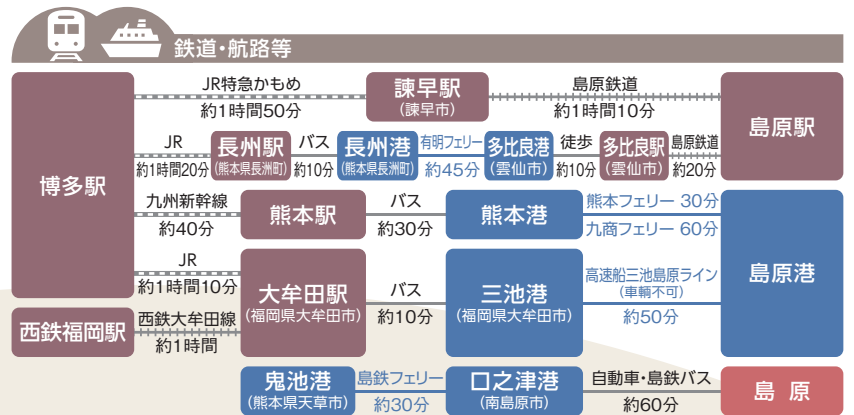
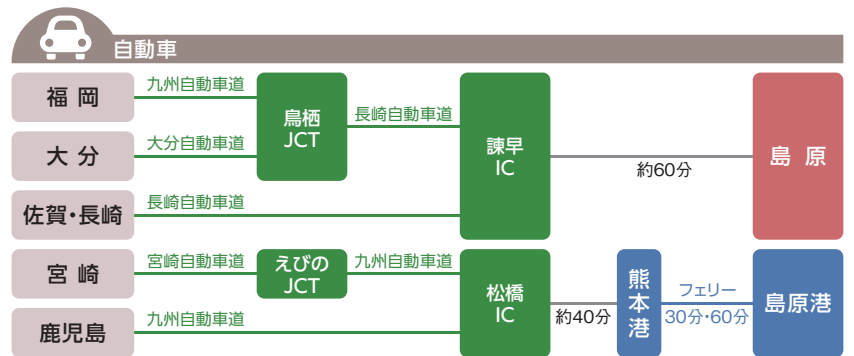
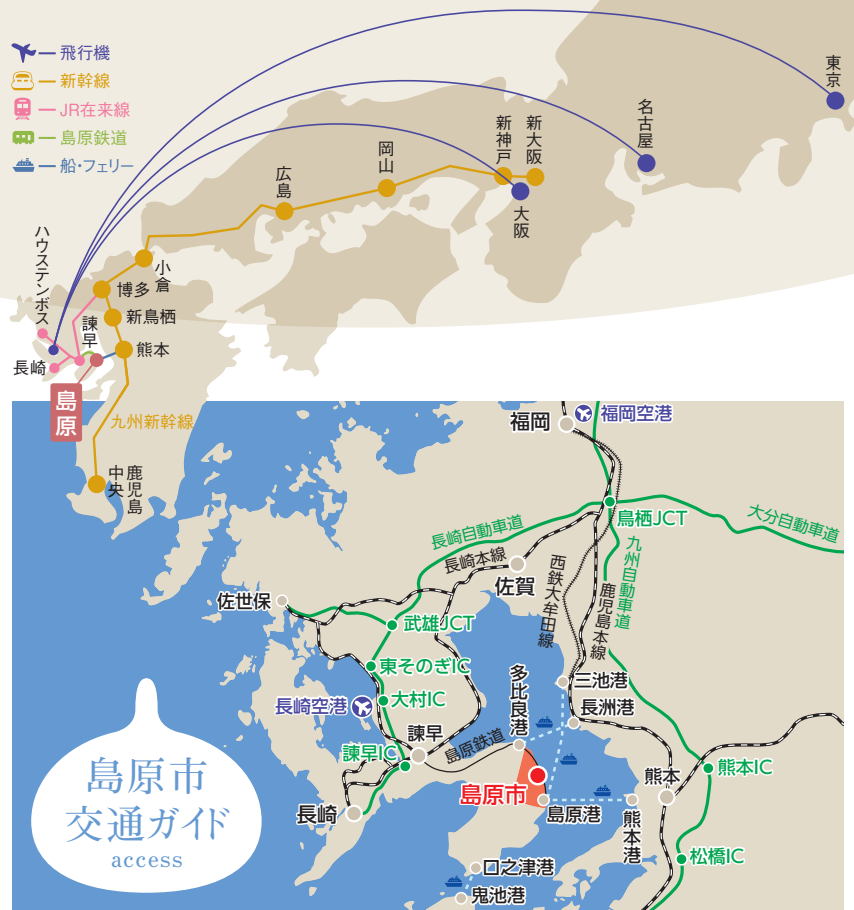
この市勢要覧では、「島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、島原市のブランドイメージとして位置付けられている「湧水」を中心に本市で暮らす「ひと」にスポットを当て、本市で活躍する市民の皆様の写真を数多く使わせていただきました。

生き生きと活躍する市民の姿や現在進めている施策をご覧いただき、本市の魅力発見や本市を紹介していただくツールとして、様々な場面でご活用いただければ幸いに存じます。

平成三十年三月

島原市長 古川 隆三郎





長崎県島原市市勢要覧

発行：島原市総務部総務課 〒855-8555 長崎県島原市上の町537番地
TEL.0957-63-1111 FAX.0957-64-5525 E-mail: somu@city.shimabara.lg.jp

印刷：株式会社 昭和堂

Shimabara City Profile Book

撮影場所：しまばら湧水館